

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	予防接種事業	会計名称	一般会計		担当課	健康増進課	
		予算科目	4 款 1 項 3 目	事業番号	2100	所属長名	栗田計誠
事業評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)				担当責任者名	大谷香代子	
法令根拠等	予防接種法				実施期間	【開始】	令和/平成 18 年度
総合計画での位置付け	健康福祉都市の創造 生涯にわたる健康づくり					【終了】	令和 年度(予定) <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし
総合計画における本事業の役割	予防接種の接種率を高め、疾病の発生及びまん延を予防することで健康な状態を維持し、健康寿命の延伸を目指す。			事業の対象	乳幼児、児童・生徒、昭和37年4月2日から昭和54年4月1日の間に生まれた男性、65歳以上の高齢者		
事業の目的	各種予防接種の実施により、伝染のおそれのある疾病の発生及びまん延を予防し、公衆衛生の向上及び増進に寄与するとともに、予防接種による健康被害の迅速な救済を図ることを目的とする。			昨年度の課題	長期化するコロナ禍によって停滞している予防接種もあるため、全般的な接種勧奨に引き続き努めること。なお、HPVワクチンは令和4年4月から積極的勧奨を指示されており、留意すること。		
事業の内容(整備内容)	予防接種法上定められている疾病に対する予防ワクチン及び予防接種法に基づかない任意接種を医療機関に委託して個別接種を実施する。			昨年度の課題に対する具体的な改善策	コロナ禍で小児科受診をためらわないよう、必要な予防接種を適切な時期に接種できるよう乳幼児健診の機会をとらえ啓発する。積極的勧奨が再開されたHPVワクチンについて、正しい情報を提供し、接種の判断ができるよう周知する。		

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳 (千円)							事業活動の実績 (活動指標)					
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	前年度実績	4年度予定	9月末の実績	4年度実績
直接事業費	95,919	115,185	38,177	0	0	101,337	定期接種 (A類疾病) 接種者	人	5254	6500	2883	4792
財源内訳												
国庫支出金	1,892	1,503	0	0	0	1,528						
県支出金	0	0	0	0	0	0						
地方債	0	0	0	0	0	0						
その他	0	0	0	0	0	0	定期接種 (B類疾病) 接種者	人	9300	9000	238	8293
一般財源	94,027	113,682	38,177	0	0	99,809						
職員の人工(にんく)数	1.25	1.25				1.25	風しん抗体検査実施者数	人	218	500	148	206
1人工当たりの人件費単価	7,841	7,794				7,794						
※ 直接事業費+人件費	105,720	124,928				111,080						
主な実施主体	一部委託		実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)		医療機関への委託料(98,626千円)							
向こう5年間の直接事業費の推移(千円)					5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	5年間の合計		
					133,000	133,000	100,000	100,000	100,000	566,000		
成果指標	指標	MR(麻しん・風しん)2期予防接種の接種率			単位	区分年度	前年度	4年度	5年度	目標 毎年度		
					%							
	指標設定の考え方	日本は麻しんの排除状態にあると認定されたが、近年、免疫を持たない年齢層での麻しん・風しんの流行がみられており、社会的に与える影響は大きい。標準的な時期にMR(麻しん・風しん)予防接種を受けることで、麻しん・風しんの発症を防ぎ、重篤な後遺症や先天性風しん症候群の発生を無くすることができる。			⇒	目標	100	100	100	100		
	指標で表せない効果	重症疾患を持ち長期療養している方や保護者の考えにより接種されない方もあり、接種率を100%にすることは難しい。				実績	95.3	95.4				

事務事業評価 (CHECK)

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)		HPVワクチンの積極的勧奨が再開され、キャッチアップ接種も時限的に実施され、接種者の増加がみられ補正予算を計上した。									
事業 業務 事業	自己 判定 (担当 責任 者)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 社会情勢又は行政事務に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。	5	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	S	事業 成果 ・工夫 した点 事業 の苦 労した 点・課題	季節性インフルエンザの流行が直近2年間に比べ上回る傾向がみられ、高齢者インフルエンザの接種期間を1か月延長した。 長期化するコロナ禍であっても、必要な予防接種を受け感染症に対する免疫を獲得するため、乳幼児健診や育児相談等での接種勧奨に努めた。		
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 社会情勢又は行政事務に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。	5						
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 市は関与しないで、民間や市民団体に委ねるべきである。 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	4						
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。	4						
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。	4						
			施策への貢献度	5 4 3 2 1 施策推進につなげている。 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。	4						
	効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。	4							
		コスト効率	5 4 3 2 1 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。	3							
		市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。	3							
	の 評 価	一次 判定 (所 属 長)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 社会情勢又は行政事務に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。	5	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D		S	事業 の 方 向 性 所 属 長 の 課 題 認 識	■ 事業継続と判断する。 □ 事業縮小と判断する □ 事業廃止と判断する (判断の理由) 予防接種法に基づき、実施が義務付けられている事業であるため、継続していく必要がある。
				社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 社会情勢又は行政事務に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。	5					
				市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 市は関与しないで、民間や市民団体に委ねるべきである。 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	4					
有効性			事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。	4						
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。	4						
			施策への貢献度	5 4 3 2 1 施策推進につなげている。 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。	4						
効率性		手段の最適性	5 4 3 2 1 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。	4							
		コスト効率	5 4 3 2 1 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。	3							
		市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。	3							